

令和2年6月3日

南の風ジュニア版特集号IX

横浜市南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回のテーマは、**オフボールマン（ボールを持たないプレーヤー）の『ボールマンのドライブに合わせるスペースの取り方』**

についてです。

これをテーマにした理由は、バスケットボールの基本の一つである『スペース取り』を皆さんに身につけてほしいからです。なぜならバスケットボールはボールを持っていない4人が、ボールマンのじゃまをしないで、如何に攻めやすい場所（スペース）に動けるかが勝敗に大きく関わってくるからです。

チーム練習や部活の再開に向けて準備をしておきましょう。5on5～3on3の中で、味方同士でスペースの取り方をシュミレーションしてください。

実はこの『スペース取り』は、アンダーカテゴリー（U19～16）女子日本代表（現在世界ランク11位）の課題にもなっているのです。基本的なスキルですから、早い年代のうちに身につけたいものです。

すでにチームや部活でやっている人は復習のつもりで取り組んでください。

ペイントエリアに味方がドライブで攻めた時、他の4人のスペース取りの基本です。

アライメント（フォーメーション）は、4アウト1インとします。

トップの位置に2人（ツォガード）、左右のウイングに1人ずつ、ボールと対角のショートコーナーに1人です。リングに向かって右のウイングのドライブから始めます。

最初に、ドライブがミドルライン側におこなわれた場合です。

逆サイドのショートコーナーにいた選手は、ドリブラーがペイントに入る前に、反対側のショートコーナーに移動します。自分についているディフェンスがドリブラーを止めるようにヘルプに行けば、自分がノーマークになります。ヘルプに行かなければドリブラーがそのままシュートに行けます。このような合わせ方を『**ドラッグ**』と呼びます。

ドリブラーから遠い方のウイングは、ドライブに合わせてリングに飛び込んで行きます。この合わせ方は『**ダイブ**』です。

ドリブラーに近いガードは、セーフティーになるために下がります。これを『**ディフェンス**』と言います。

ドリブラーから遠い位置のガードは、ドリブラーから離れるように動き、ダイブした選手が元いた場所に移動するかプレーの展開によっては、コーナーまで動きます。この合わせ方を『**ドリフト**』と呼びます。

ちなみに、ドリブルで仕掛ける選手のことを『**ドライブ**』と呼んでいます。

合わせ方で一番大事なことは、ドライブする選手を優先させることです。そのままシュートに行くにしても、ターンしたり方向を変えたりするにしても、他の4人はドライブする選手のためにスペースを空け、攻めやすくすることが大切です。基本の動き方を繰り返して練習し、試合で5人がドライブに合わせた攻めができるようにしてください。